

## 第66回日本小児保健協会学術集会 イブニングセミナー

2020 幼児健康度調査の50年～子どもとともに50年～

## 現代の臨床から見える子どもの健康の課題

衛 藤 隆 (日本小児保健協会名誉会長 / 東京大学名誉教授)

## I. 幼児健康度調査の概要

この調査は、昭和55（1980）年から10年に1度実施されてきた子どもの健康や成育環境等に関する調査である。第1回、昭和55（1980）年の後、平成2（1990）年、平成12（2000）年、平成22（2010）年に実施されてきた。

調査対象は、満1歳から7歳未満の未就学児である。厚生労働省が行政調査として10年毎に行う乳幼児身体発育調査と時期を合わせ、日本小児保健協会が実施主体となり行ってきた。

過去の調査と比較可能な質問を設定し、家庭・育児環境、親の状況、子どもの健康・生活、発達等について質問紙形式で調査を行ってきた。次は令和2（2020）年に第5回を実施する予定である。

この調査により、どのようなことが明らかになってきたかを示す一例として「午後10時以降に就寝する幼児の割合」をお示しする（図）。昭和55年の調査から平成2年、平成12年と遅寝の傾向が進んでいったが、平成22年の調査ではこの傾向によりやく歯止めがかかり、平成2年の値に近づいたことが示された。

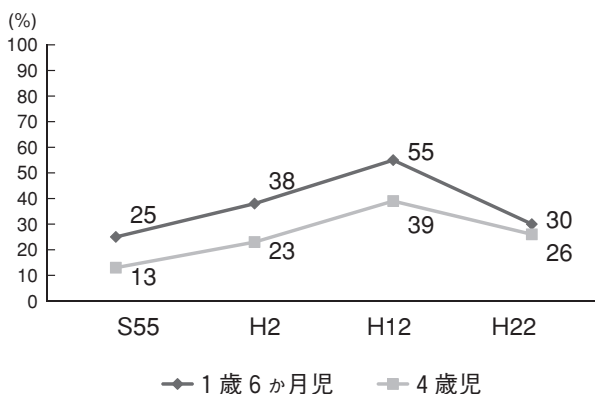


図 午後10時以降に就寝する幼児の割合

## II. 日常の小児科臨床から見える子どもの発達

現在の日々の小児科臨床を通じ、子どもの発達や健康課題について感ずることについて述べてみる。子どもは発熱や咳嗽、下痢・嘔吐などの症状を訴えて受診するほか、予防接種、乳幼児健康診査（健診）を目的とし、診療機関に親に連れられやってくる。そのような場面を通じて観察したとしても、家庭の成育環境や親子関係については必ずしも十分に見えず、情報も乏しいといえる。しかし、時には「あれっ？」と思う気になる現象に出くわすことがある。私が最近経験した出来事としては、生後7か月の男児で「寝返りをまだしない」との相談を受けたことである。この子どもの母親は、「でも、お座りはします」と言う。これについては発達の順序性からみて疑問を感じたので、「座らせれば座るといいますか？」と尋ねると、「そうです」との答えであった。自発的に座るのではないようであった。このことについては、後ほどさらに考察することにする。

ヒトは他の哺乳類と比べて、生後年月をかけて形態と機能が充実する特徴がある。それらを健診を通じ、計測したり、観察したりして記録し、成長・発達の評価を行ったり、疾病や異常の発見をする機会としたりしている。発達の様子についてはその獲得月齢についてはある程度の幅を持ちながらも順序性を保ちながら進展してくることは知られていた。

## III. 運動機能の発達状況

寝返りの時期に関する先行研究を捜してみると、21世紀に入ってからの研究としてカルマールの論文<sup>1)</sup>が見つかった。表では、同論文内の「対象児の各運動機

表 対象児の運動機能の平均獲得月齢<sup>1)</sup>

定頸	3.2±0.7
寝返り	4.9±1.7
支え座り	5.9±1.5
ピポッティング	6.0±1.8
ずり這い	6.8±1.9
ひとり座り	7.1±1.5
四つ這い	8.6±2.0
つかまり立ち	9.0±1.7
高這い	9.8±2.6
ひとり歩き	11.9±1.8
n = 307	(か月)

能の平均獲得月齢」を引用して示した。厚生労働省<sup>2)</sup>と田中ら<sup>3)</sup>の結果と同様に、カルマールの調査の対象児も定頸、寝返り、ひとり座り、ひとり歩きの発達順序で獲得しており、それら各運動機能の平均獲得月齢は先行研究と比較して大きな差異は認められなかった。

しかし、筆者はこれまでの健診や診療を通じ、「寝返り」の開始時期にはかなり幅があると感じている。1980年代後半、沖縄県宮古地区・八重山地区での乳幼児健診で観察した現象を紹介する。それは「生後3か月で多くの子どもが寝返りをしている」ということである。沖縄県生まれの子どもだけでなく、本土から転勤して来た人たちの子どもも同様に概ね3か月頃から寝返りをする乳児が多いという状況であった。

他方で、上述のごとく、最近東京のある病院の乳幼児健診で、生後7か月の男児が「寝返りをまだしない」との相談を受けることがあった。この症例では「座らせれば座る」とのことで運動発達が遅れているとは断定できない状況であった。母親からさらに日常生活についての情報を収集した結果、バウンサーという育児用具を多用していることが判明した。この器具は乳児を座らせたままに保持するものである。

他方、子育て中の母親のブログから「寝返り」に関する話題を探ると、以下のようなものが見つかった。

例1：生後6か月で、もうすぐ生後7か月になる男の子、寝返りがまだ1人でできないんです。横に体をねじるんですが、寝返りはできたことはありません。

例2：寝返りをなかなかしようとしせず、お座り、つかまり立ちを先にしていてとても心配でした。(中略)10か月頃、昼寝をしていて、起きたようで見に行くと、1人で寝返りして、ニコニコと笑っていました。思わ

ず「やったね」と子どもに向かって、叫んでしまいました。

例3：生後3か月で娘が寝返りをうった。

なぜお座りができて寝返りがまだできないのであるうか。診察室で筆者が相談を受けた乳児の家庭では、寝返りを試すことができる育児環境ではなかった。兄・姉がいて部屋も広くない家庭環境で乳児を安全に座らせておく意義があったようである。しかし、乳児の体では運動発達の次の段階のお座りができるようになっていた。

#### IV. 「寝返り」を巡って考えたこと

子どもが育つ環境（部屋の広さ、育児用品、その他）は、時代の影響を受け変化する。子どもは環境に適応し柔軟に対処している可能性がある。他方で身のこなしの巧緻性（上手・下手）は乳幼児期の体験が重要であることも考えておく必要がある。長い一生を生き延びるための体力・運動能力の基礎という側面も考慮する必要がある。

#### V. 2020年幼児健康度調査への期待

子どもの健康・生活、発達等に加え、家庭・育児環境、親の状況等について10年に1度調査してきた成果を踏まえ、今後も継続することにより、小児保健はじめ子どもやその親にかかわる保健・福祉・医療等に関する政策や民間の活動に役立てることが可能である。令和2（2020）年の幼児健康度調査へのご理解とご協力をお願いしたい。

#### 文 献

- 1) カルマール良子. 乳児のはいはいに関する調査報告. 発育発達研究 2017; 76: 1-7.
- 2) 厚生労働省. “11-1 一般調査による乳幼児の運動機能通過率, 平成22年度乳幼児身体発育調査” < <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00450272&tstat=000001024533&cycle=8&tclass1=000001048106> > (2019年9月30日アクセス)
- 3) 田中 肇, 福田郁江, 宮本晶恵, 他. 乳児期における腹臥位遊びと運動発達との関係に関するアンケート調査. 日本小児科学会誌 2017; 114: 1060-1064.